

いまさら聞けない 予防接種の正しい知識

近年、多くの医療従事者が予防接種に興味をもち、手がけるようになっていく。

ここ 10 年ほどで、新しい概念やメカニズムのワクチンが導入され、一方で免疫抑制療法が一般化するなど、ワクチン接種にあたり考慮すべきことが増えている。また麻疹や風疹など平時の感染循環が乏しくなり社会全体の免疫が下がってきており、ワクチンだけの免疫では持続期間が短いことが明らかになってきている。昔の常識が変わってきている。

日本の医学教育ではワクチンをきちんと教える機会が乏しいようである。当科にも研修医がローテーションで勉強に来るが、皮下注射の手技もおぼつかない。このご時世では、「患者で練習する」のはリスクが大きい。予防接種は簡単だと誤解し古い知識で誤った接種を行いトラブルが起きることを避けるため、今どきの知識を整理しておくことは重要である。

本特集では、「ワクチンの考えかた」を伝えることを主眼として、総論や、実際の接種の際に遭遇する問題点にフォーカスし、具体的な実例をあげながら考えかたがわかるような方向を目指した。総論や Q&A に多めに紙面を割り当てた。われわれが長年ワクチン接種を行い、蓄積したノウハウをできるだけ盛り込むように試みた。

これからワクチンにかかわる人、ワクチン接種を行っている先生方が、「あ、そういうことだったのか！」と腑に落ちるところがあれば、幸いである。

今回の特集で、高名な先生方に、素晴らしい原稿を寄稿していただいた。この場を借りて感謝申し上げたい。

名鉄病院予防接種センター
菊池 均